

まとめ

グループワークシート *キーワード

① Aさんに対してどのような支援ができますか

*本人の思い

・パットを使いたくない=自分らしさの表現
「自分でできることはしたい」という思いを傾聴、主体性の尊重

*支援のポイント

・拒否の背景にある気持ちに寄り添う
(不快感・自信の喪失・羞恥心の理解)
・本人が納得できる形での選択肢の提示
例:夜間だけ使用する、一時的な対応であることの説明
・自宅で一緒に生活していきたいという妻の思いもながらどこに不安があるかを知ってもらう。
・自宅に帰ってから、失敗してしまった場合どう対処しようと思っているか生活イメージを確認してみる。
・パットを使いたくないという気持ちに対して、どんな思いが潜んでいるのかを聞き出す。
(今後の回復への期待感なのか、パットを使用することへのマイナスイメージが拒否に繋がっているのか等)

② 妻に対してどのような支援ができますか

*不安の整理

・不安を言語化・可視化し、具体的に整理する
(何が不安か?どこまで対応できるか?介護負担は?睡眠不足は?)

*支援のポイント

・夫婦に合った方法を一緒に考える姿勢を伝える
・選択肢を共有し、納得の支援を行う
・Aさんの思いを伝え、なぜパットを当てたくないのか、失敗してしまった時どう対処しようと考えているかを知ってもらう

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

*理解の姿勢

・思いの乖離は自然なこと。その背景や理由を理解する
・本人の「できる」気持ちと、妻の「不安」の双方に寄り添う

*支援のポイント

・第三者として介護職が橋渡し役となる
・どちらか一方に寄るのではなく、両者をつなぐ視点を大切にする
・他職種との連携・情報共有・支援体制の構築
本人と家族の希望や課題、現実的な対応策などを整理・共有する

望む暮らしの確認
本人・妻の思いを共有する場を持つ
目標の共有

まとめ①



【患者・家族の思いや生活の様子を多職種へ発信しよう】

＜患者・家族の気持ちの差が生じる背景＞

- * 患者が病気と向き合う時間と家族が受け取る時間の差
- * 患者は家族に心配かけたくないという気持ち、家族は患者を気遣い本音を伝えられない（コミュニケーションのすれ違い）
- * 役割の変化（患者は療養に専念、家族は介護や経済的な問題など今後の生活設計を考えるなど現実的な課題解決に追われる）
- * 患者も不安、混乱、落ち込む一方、家族も同じように患者とは異なる不安、混乱、落ち込む（心理的負担を双方で抱える）

まとめ②



- 一人の人間として、それぞれに価値観を持って生活している
- 私たちは、患者・家族それぞれの価値観を尊重しながら支援していく必要がある
- 生活を支援する介護職だからこそ、患者・家族の視点に一番近い存在であるからこそ、様々な意見を聞く機会が多くある
- 自分が見聞きしたことを多職種に発信することで、様々な職種の視点からどのようにサポートしていけば良いか見えてくる

1グループ

グループワークシート

① Aさんに対してどのような支援ができますか

○思い

・もともと身の回りのことができたので、自分のことは自分でしたい。トイレもパットは使用したくない、パットへの抵抗感や介助されることに抵抗があるのではないかな。

- ・失敗しないのできるのではないかなという思いがある
- ・トイレ動作に時間がかかる（身体的な理由もあるのではないかな）
- ・病気に対しての受け入れができていない可能性がある
- ・自宅退院を強く希望している
- ・まだまだ自分でできるのではないかなという思いがある

障害に対する需要、排せつに対する羞恥心があるのではないかな

○思いに対する支援

・病室からトイレまで長く、漏れてしまうのではないかな
→ポータブルトイレなど距離に対してアプローチ、早めに声掛けする。
・家族の介護力の確認。
・Aさんの排尿パターンを確認する、その時間でトイレ誘導を行い、なるべく失禁が無くなるように支援する。
・トイレ動作に時間がかかり失禁してしまう→衣服の選定をする、目標を患者さんと共有する。
・まとめてアプローチするのは難しいが、本人の気持ちをオープンに聞きゴールに向けた話をしていく
・本人と調整しながら排せつ設定を行う。
・リハビリパンツのみする、布パンツを試してみる。本人へのアプローチを記録に残す

② 妻に対してどのような支援ができますか

○思い

・在宅介護のイメージができない、自分のことは自分で出来るようになってほしい

- ・どのようなことが不安であるかわからない可能性がある
- ・夜のことが心配、
- ・今後の生活のイメージがつかない、夫がどこまでできるようになるのか・・・
- ・夜間の介護、転倒、失禁した時は？
- ・自分自身も休息を取りたい（昼間は介護で疲労）

○思いに対する支援

・転入したばかりで、本人も家族もあわてている状態ではないかな。悩みをくみ取り、まず1か月やってみましょうと伝える

- ・パンフレットなどで方法案を説明する
- ・妻の出来ることに視点をあて、ヒアリングする
- ・リハビリの見学をしてもらう
- ・対処方法を一緒に考えていく

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

・転入直後なので、Aさんがどのような状況かリハビリや病院生活の様子を妻の面会時に伝えていく、どのように変化したか伝えていく。お互いが不安に思っていることを少しずつ埋めていく関わりをしていく

- ・失禁の状況がなぜなのか、動作の問題か、年齢の影響か。日々の状況や目標を妻と共有していきながら、説明していく。
- ・ゴール地点を決めて、排せつ物品も評価しながら決めていく。
- ・お互いの意向（2人の思い）を知る、望む暮らしに近づけていくために一緒に話をしたり、丁寧に聞き取り共有していく
- ・2人のゴールを考えながら、妻・夫の思いを定期的にすり合わせていく
- ・トイレ動作能力向上や転倒リスク軽減に向け、療法士へ相談し、病棟生活で介助量の軽減に繋げる

2グループ

グループワークシート

① Aさんに対してどのような支援ができますか

○思い

いずれ自宅に帰りたい

失禁は避けたいがパットは装着したくない

リハビリパンツなら可能なのか

下位操作のしやすい衣類であるか

○思いに対する支援

Aさんが現在どのような思いを持っているかを聴取

双方どのような生活がしていきたい思いがあるのか

排泄のタイムスケジュールを設定

移動同線の提案

尊厳を壊さないように支援していく

夜のみポータブルトイレ使用、尿器使用

居室の環境整備、手すりの設置など

② 妻に対してどのような支援ができますか

○思い

在宅介護へのイメージが出来ていない

夜間介護、転倒、失禁後処理に不安がある

夫婦ともに自宅への退院を強く希望している

○思いに対する支援

どこまでの在宅介護に戻れる想定ができているのか

現在の介護度で利用できるサービスの提案

歩行の状態、排泄の現状を見ていただく

周りに支援してくれる環境があることを理解していただく

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

夫婦の思いの確認と思いのずれが生じていないか、どこにずれが生じているのかを確認

双方の不安を聴取して不安の軽減を図る

パットを装着したくないが現状夜間だけでも使用している事の理解を得る

今後入院期間を経て状況が変わる可能性があるためそれに応じた支援を検討していく

担当者会議などで多職種が介した話し合いの機会を設ける

① Aさんに対してどのような支援ができますか

○思い

自宅退院を希望

「パットは当てたくない」

→プライド、トイレ動作ができない 葛藤がある

○思いに対する支援

排泄について

尿器、ポータブルトイレの提案（声かけ）

時間を決めてトイレ誘導

どの部分に時間がかかるのか 他職種と共有

コミュニケーションをとる

私たちができる支援

どのようにしたいのか聞く 一緒に考える

否定はしない

関係性をつくる 話しかける機会を持つ

歩行に付き添う 入浴介助中

② 妻に対してどのような支援ができますか

○思い

自宅退院を希望

夜間介護等に不安

○思いに対する支援

介護指導 物品等の情報提供

外出・外泊訓練

夜間状況を伝える

転倒～リハビリを見してもらう

私たちができる支援

不安を和らげる話しかけ

小さなこと（成功、できること）を伝える

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

不足している情報収集

・なぜパットを使用したくないのか

・自宅退院希望しているのに思いの乖離はどこ？

・病気に対する認識の程度は？Aさん 奥さんにはリハビリを見してもらう

・Aさんのリハに対する意欲は？

コミュニケーション

信頼関係を築いていく どちらかに偏らない 今までの生活はどうだったのか

他職種との情報共有

できる限りのADLアップのための訓練

失敗はするが、後処理はできる

4グループ

グループワークシート

① Aさんに対してどのような支援ができますか

○思い

パットしたくない

脳梗塞でできないことが増えてきて今までと現在の差が大きくて、葛藤があるのではないかな

介助をうけることがいやなのか

○思いに対する支援

- ・パットしたくない理由を聞く
- ・トイレ動作に時間がかかる理由を観察する
- ・退院して家で生活することのイメージを聞く
- ・家ででの生活を想像できるように情報を提供する
- ・トイレ動作の自立をリハに情報提供
- ・失禁をなくすための観察・ケアを看護師と相談するなど、適材適所に情報提供をする
- ・今の身体状況から回復予後を見極める
- ・失敗しても自分で対処できるように着替えの訓練
- ・本人のこれまでの習慣を聞く
- ・自宅での生活のデモンストレーション
- ・Aさんの趣味とかも聞いてみる ストレス軽減
- ・何ができるのか、できないこともしっかり伝えることも大事

② 妻に対してどのような支援ができますか

○思い

奥さんの不安を聞く：どういふことが不安なのかを具体的に聴く。帰ってきてほしいという思いと一人で介護できるかという不安。

○思いに対する支援

- ・Aさんの状況や思いを伝える
- ・不安の中身を聞いて、具体的に対応策を検討する
- ・奥さんがどんなことができると考えているかを確認したうえで、奥さんのできる範囲での介護方法を提案
- ・排泄の失敗の時の対処だったり指導をうけることで不安が強くなることも考えられる。そこを考慮した指導をする
- ・うまくいったことや課題を共有して
- ・奥さんの話をしっかり聞いて、介護で対処できること他の職種に依頼することは依頼する
- ・日中の支援はなにをどこまでできているか聞く
- ・夫婦の仲は良いだろうと思う
- ・奥さんが一人で抱え込まないように、少し楽してケアする方法やSOSを出すところを伝える
- ・指導でなくても見学してもらう病気の理解を少しずつしてもらう

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

・自由にしたい本人と不安な妻

支援のポイント：家に帰る、帰ってきてもらうことは一致している

- ・夫婦の病気への理解ができるように多職種でかわる
- ・本人らしさを取り戻すことを主眼において、そのうえで本人の希望と奥さんができるとのすり合わせをする
- ・奥さんに今の状況を見てもらう 本人には、できないことを教えてもらい、そうすればできるか、課題解決するのか一緒に考える
- ・入院したばかり、自立を目指すゴールの見極め どのような介助なら納得がいくのかを提案奥さんもどんなことならできるのか、2人のニーズがあう方法を見つけていく
- ・2人がしっかり話しができるように、夫婦と医療職がしっかり話せるように橋渡し
- ・だれかを頼る練習を奥さんにも ・退院後も自分たちがかわるよいうことを伝えて安心してもらう
- ・退院後のサービスとの連携 外泊とか

4グループ

「できるADL」と「しているADL」をうめる

- 介助の仕方、繰り返して定着できるように、介助方法の統一をする⇒
- みんながわかるようにピクトグラムを掲示している
- 目に見えるようにする工夫患者さんにもわかるようにするのは大事
- くつをはく、くつしたをはくこととなど
- やる気がなくなることもある 体調によってもその日によって違う モチベーションをあげるこえかけ 一緒に歩きましょう 一緒に・・・
- 多職種とのコミュニケーション、訓練内容を確認して、介護職全体に周知する
- 患者さんを怒らせる看護師がいる：やりたくない気持ちを聴く

5グループ

グループワークシート

① Aさんに対してどのような支援ができますか

○思い

- ・自宅への退院希望
- ・パットは使用したくない
- ・自分のADLを向上させたい（自分のことは自分でやりたい）

○思いに対する支援

- ・なぜパットを使用したくないか確認→可能ならパット使用の推奨
- ・ポータブルトイレや尿器使用を提案。
- ・入院したてのため、排泄のパターンを確認。排泄の感覚を掴む。失禁前に誘導可能か挑戦してみる。
- ・どこに操作に時間がかかるか確認。必要ならリハビリで動作練習。どこまでなら使用可能か確認（例：リハビリパンツなら可能か）
- ・多職種との情報共有をして、退院後ゴールを共有。ADLの向上によって排泄アイテムや使用するものを検討していく
- ・（本人の排泄感覚がしっかりしている前提で）移動手段の検討
- ・（失禁した場合）家族が洗濯などのフォローが可能か
- ・退院後の生活（排泄）について、本人と家族について確認。
- ・泌尿器に問題ある可能性あるため、Dr.やNsに相談し泌尿器の受診も検討

② 妻に対してどのような支援ができますか

○思い

- ・自宅への退院希望
- ・夜間介護・転倒・失禁後の処理に不安
- ・今まで通りの生活に戻るのではないかと不安（戻れるか不安）

○思いに対する支援

- ・今現在の夫の状況を理解しているか→どうなってほしいか
- ・妻のどこまで支援が可能か確認、
- ・リハビリの見学をしてもらい現状を理解してもらう。
- ・日頃より現状を伝えていく。妻と話し合う機会を作る。退院後の生活のイメージをつけてもらう。新たな不安が出た場合は傾聴し指導などの対応をしていく。
- ・必要に応じて家族指導の実施。
- ・必要であれば、多職種からの話を聞いてもらい提案をする。
- ・病前の状況に応じた対応を都度確認し情報共有していく。
- ・妻が現状どう思っているか、
- ・本人との関係性を確認（夫は妻に介護してもらいたいのか、妻は介護をしたいか：特に失禁後処理）

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

- ・多職種との連携を強化。リハビリの状況を見ながらADL自立の項目を多職種で相談しながら増やしていく。
- ・必要に応じて家族指導の実施。
- ・サービスを使用し妻の負担軽減を目指す。介護用品の選定。
- ・現状を知ったうえで、夫婦へ改めて自宅でどのような生活を想定しているか確認。
- ・妻に実際に不安に感じている所を試してもらう。自宅内でどこまで支援が出来るか夫と妻に体感してもらう
- ・本人へ：都度確認しながらゴールを目指す、妻：現状を伝える→夫婦が納得できるまで細かいコミュニケーションをとっていく
- ・カンファレンスの実施。お互いの思いをお互いに知ってもらう。妻の不安を少しでも軽減していく。
- ・コミュニケーションを常にとっていく。その中で思いが変わる可能性もあるため、都度傾聴し対応していく。
- ・コミュニケーションを細かくとることで信頼関係を築く。二人の思いを聞いて、二人が納得できる落としどころを多職種と共有＆相談していく
- ・病前の生活を夫婦へ確認。夫婦に退院後の生活を確認をしながら必要なサービスや指導を提供していく。

6グループ

グループワークシート

① Aさんに対してどのような支援ができますか

○思い トイレでの排泄を希望
家に帰りたい
パットは付けたくない

○思いに対する支援
トイレでの排泄を希望されているため昼夜ともにリハビリ
パンツ使用し時間誘導していく「パット拒否であり失禁を
さけるため」。また歩行が可能のため日中は4点杖使用し
歩行を促していく。

② 妻に対してどのような支援ができますか

○思い
在宅退院希望
退院後の夜間の生活が不安

○思いに対する支援
在宅退院後が不安であるため、リハビリ見学「家族指導」
歩行訓練や転倒時の対応。病棟、排泄指導など実施してい
く。また他に協力者がいないか確認する。

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

夫婦ともに在宅退院での希望があるため、家族指導を実施していく必要性があると考えられる。
Aさんは入院したばかりのため排泄は時間誘導していく、失禁があった場合を想定し妻には排泄処理の指導をしていく。
また夜間帯での不安があるため在宅を想定した病棟泊など実施していく。

7グループ

グループワークシート

① Aさんに対してどのような支援ができますか

○思い

自宅へ帰りたい

失禁してしまうがパットはつけたくない

自分の事は自分でやりたい

○思いに対する支援

- ・まず本人の気持ちを聞き出す
- ・なぜパットをつけたくないのか理由と気持ちを聞き出す
- ・本人は在宅へと帰った際にどのようなイメージを持っているか聞き出す
- ・本人の気持ちを聞き出し寄り添った上で在宅を想定した排泄プラン等を提案し実践する

② 妻に対してどのような支援ができますか

○思い

在宅のイメージができていない

夜間・転倒・失禁後の処理に不安がある

自宅へ帰らせたい

○思いに対する支援

- ・家での妻のスケジュールを聞き出す。
- ・不安がある箇所は具体的に聞き出し、細かいイメージを持ってもらう
- ・介護士から病院での本人の様子や日常の過ごし方を共有し理解を深めてもらう。

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

- ・双方の意見や、気持ちに寄り添いケアの提案をする。
- ・お互いの考えを理解しあう為に面談の場や話し合いを数回開催し、お互いの気持ちを理解しあえるように支援する
- ・本人が「できる」と考えている事を妻に共有し、妻の「不安」を本人へ共有する。
- ・双方の気持ちや考えを聞き取り、チームのNS セラピスト Dr MSW 等へ報告・共有しケアの方法を考える。

8グループ

グループワークシート

① Aさんに対してどのような支援ができますか

○思い

自宅に帰りたい。

トイレ動作に時間がかかり失禁がある。

パットは使用したくない。

○思いに対する支援

ズボンは脱ぎやすいものをはいているか。吸収しやすい布パンツなのかリハビリパンツを使用しトイレの声掛けや尿量の確認をしていく。自立した生活を送るうえで課題を説明していく。失禁の処理ができるか、更衣動作の確認。病気の理解不足にてDr,MSWからの説明。できたことに対して共感する。1週間まえではいまではできたことの共感をする。多職種との情報共有を行う。

② 妻に対してどのような支援ができますか

○思い

自立した生活。

介護に対する不安

○思いに対する支援

現在の状況に対しての不安の解消。失禁をしたことの介護指導。どんな介助が必要か面会時に介護指導を行う。リハビリの見学、歩行状況の確認病棟での生活状況をイメージしてもらう。不安の軽減を図る。今後在宅サービスの提案。精神的なフォローを行う。介護の不安があり病棟内での体験してもらう。

③ 夫婦の思いをどのように埋めていきますか

ADLの獲得自宅環境の説明。妻に対して不安があり、転倒した場合連絡方法の対応の仕方。Aさんのできること介助が必要お互いに共有していく。できないことの不安お互いの思いを知ること多職種と共有する。今の状況を体験してもらう。家で生活できるイメージを伝える。失禁委たいして介助に負担にならないように在宅サービスの検討をしていく。二人の意見を聞き成功体験を分かち合う。多職種との退院支援を伝えていく。二人の思いを共感する場面をつくる。できなかったことに対する不安を減らしていく。成功体験共感していく。コミュニケーションを行い不安に対しての支援を行う。